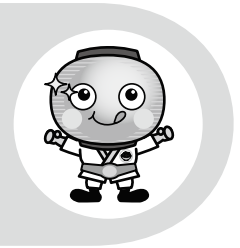


# 大昔の戸畑の様子を そうぞうしてみよう!

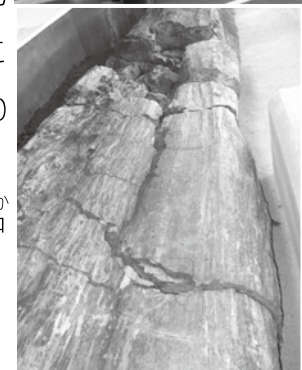


わたしたちが住む戸畑は、大昔はどのような様子だったのでしょうか。今ものこるものをたずねながら、大昔の戸畑の様子をそうぞうする旅に出かけましょう。

## ① 夜宮の大珪化木～約3500万年前～

天籟寺小学校の西がわの道に、「夜宮の大珪化木」があります。珪化木とは、木がたおれて土の中にうまり、長い時間をかけて化石(※)になったものです。「夜宮の大珪化木」は直径約2メートル・長さ約40メートルで日本最大級であり、国の天然記念物になっています。

このような大きな木があったことから、大昔、このあたりは森の中だったのでしょうか。



2010年(平成22年)に見学施設が完成しました。

## ② 牧山古墳群～約1400年前～



戸畑駅の西に都島展望公園があります。この公園のまわりには昔、30基ほどの古墳(※)がありました。

今は2基の古墳が「牧山古墳」としてのこされています。古墳からは、当時の人が使っていた道具や鉄でできた刀、矢の先、金色にぬられたイヤリング(耳環)が見つかりました。身分の高い人にしか手に入らないものばかりです。

牧山古墳は、戸畑にただ一つのこる貴重な古墳です。



## ③ 若松水道碑～明治時代～

都島展望公園には大きな「若松水道碑」があります。これは若松と戸畑を結ぶ水道が1912年(明治45年)にできたことを記念してつくられました。



化石・・・大昔の生き物がのこしたもの。生き物の体そのまものこっているものもあれば、足あとなどがのこっているだけのものもあります。

古墳・・・身分の高い人がなくなったときにうめられたお墓。

すいどうひ いし やく まきやまこ  
 水道碑の石は約3メートルほどあり、牧山古  
 ぶんぐん てんじょうせき つか  
 墳群の天井石(※)を使ったといわれています。

④ 万葉歌碑



「とばた」の由来となる地名は、いつごろか  
 から使われたのでしょうか。

初めて本に書かれたのは、奈良時代につくら  
 れた「日本書紀」「筑前風土記」「万葉集」(※)

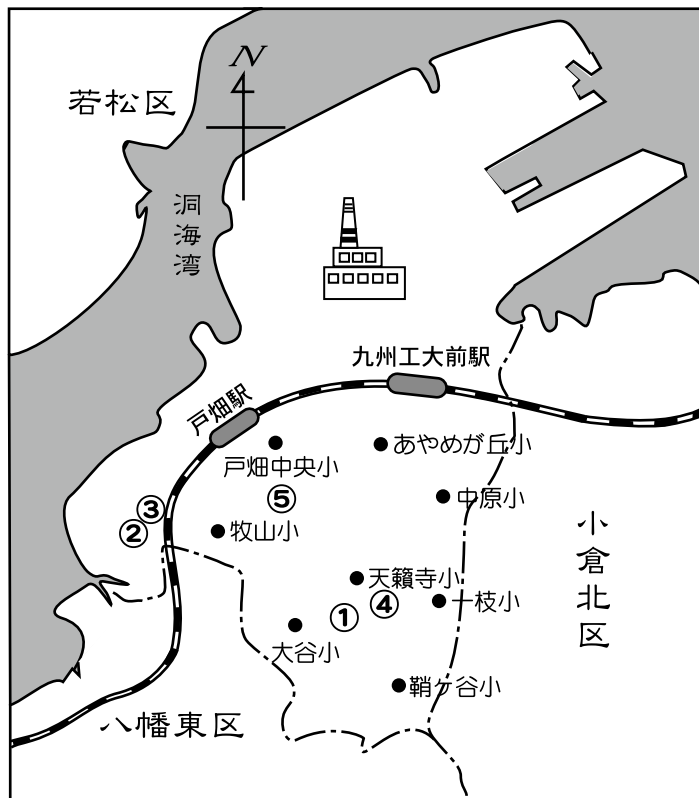
の中で、鳥旗や飛幡といった文字で登場します。

現在使われている「戸畑」の文字は、万葉集の中の歌に書かれている「飛幡」が由来といわれ  
 ています。

夜宮公園には、その歌がぎざまれた碑(※)があります。

「ほととぎす 飛幡の浦にしく浪の しばしば君を見むよしもがも」(飛幡の海岸に、たびたび  
 うち寄せる波のように、何度もあなたに会う方法があればいいのになあ)

「戸畑」の文字そのものは、今から500年前ごろから使われるようになったといわれています。



⑤ 千防遺跡～古墳～平安時代～



へいあんじだい かわら  
 平安時代の瓦



せいえんどぎ  
 製塩土器  
 (塩をつくるための土器) せんね。

戸畑区役所のまわりを工事したとき、古墳時代の終  
 わりから平安時代の遺跡(※)が見つかりました。ここ  
 からは、塩をつくるための土器や中国の焼物がたくさ  
 ん発見されました。

めずらしい平安時代の瓦も見つかりました。ここは、  
 塩づくりにかかわった人たちの村だったのかもしれま



天井石…古墳の石室の天井に使われた大きな石。 遺跡…昔の人たちの生活や活動のあと。  
 万葉集…奈良時代につくられた日本でもっとも古い歌集。

碑…あることを記念し、後の時代に伝えるためにそのことを記しておく石。石碑のこと。